

人工炭酸泉研究会設立にあたって

山梨医科大学名誉教授
山梨県環境科学研究所所長
人工炭酸泉研究会会長
入 來 正 躬

私は去る4月17日に行われました人工炭酸泉研究会設立総会に於きまして人工炭酸泉研究会会長に御指名を頂きました。会長就任に際し一言ご挨拶を述べさせていただきます。

30余年前、私がドイツ バード・ナウハイムのマックス・プランク研究所に留学中、バード・ナウハイム温泉から湧出する炭酸ガスを含有する温泉に入浴する事による高血圧症、心臓病治療を知りました。炭酸泉浴の末梢血管拡張効果及び冷感麻痺効果に基づく療法です。帰国後この療法を日本で行えないかと、種々調査、検討を致しましたが、適当な天然泉、人工炭酸泉製造装置が得られず断念せざるを得ませんでした。

ドイツの炭酸泉入浴療法は1000ppmを超える高濃度の炭酸水が条件で、これに浸漬しますと短時間で浸漬部が潮紅する事、32～35 前後の水でも冷感麻痺効果により寒さを感じにくいという現象が見られます。

昨年、三菱レイヨン(株)・三菱レイヨン・エンジニアリング(株)の担当の方が同社で開発した高濃度人工炭酸泉製造装置について意見を伺いたいと来所されました。その折、前述の潮紅現象、冷感麻痺現象を説明し、それらが発現すれば天然炭酸泉と同等の効果が期待できる旨説明いたしました。同社でそれらを確認する実験を行い、かなり明確な潮紅を示す資料を持参されました。炭酸泉浴に伴う潮紅は極めて局所的でラインを引いたようにはっきり解ります。

この潮紅現象を確認し、久しく断念しておりました炭酸泉浴療法確立に再度挑戦してみようとするに至った次第です。

しかしながら、天然炭酸泉と人工炭酸泉がその効果として全く同じなのか、伝えられる効能以外にどのような症状に効果を持つのか、どのような手順で入浴治療を行うのか、等未だ分明でないことが多く、人工炭酸泉製造装置についても、取扱の容易性、安全性等改良せねばならぬ課題を多く抱えて居るのが現状です。これらについて、この療法にご関心をお持ちいただける先生方のお力を合わせて、この療法が真に有効な療法であることを確認するためには研究会を設立する事が最も効果的と考え、僭越ながら発起人として皆様にご参加を呼びかけさせていただいた次第です。

去る4月17日人工炭酸泉研究会設立総会、第1回研究発表会を開催致し、前述の通り会長を引き受けさせていただきました。第1回の研究発表会は7人の先生方にご発表を頂き、活発な質疑応答の中、成功裡に終えることが出来ました。準備期間が殆んどない中での開催でしたが、内容的にも十分価値ある発表会であったと喜んでおります。

また、この研究会設立に際し、ドイツの旧友に連絡いたしました処、下記の通り炭酸泉研究の最近の成果についての論文を送付頂きました。

1)「炭酸浴(炭酸泉)」

K. L. Schmid 教授

物理医学, 温泉学, リウマチ学, 臨床研究施設, バード・ナウハイム, ドイツ

2)「小動脈閉塞性疾患のCO₂温泉療法: 生理と臨床」

B. Hartmann 教授他

応用生理学, 温泉医学研究所, フライブルグ大学, ドイツ

ドイツに於いても現在もなお、炭酸泉研究が活発に行われていることを知り、大いに啓発されました。両論文とも内容的に極めて示唆に富むものであり、今後の私達の研究に役立つものと考え、著作者の了解を得て、拙訳をここに掲載させていただくことと致しました。皆様のご研究の参考に供して頂ければ望外の喜びです。ドイツの旧友達も日本での人工炭酸泉研究会設立を大いに喜んで下さっており、この論文が生かされることを強く希望致して居られることを申し添えます。

第2回の人工炭酸泉研究会を来る10月23日に予定しております。それまでに先生方の研究が更に進み、多くの研究成果を持ち寄れる事、加えて更に炭酸泉に関心を持たれる多くのお仲間のご参加を得て開催出来る事を祈りつつ、ご挨拶とさせていただきます。